

新井信昭（あらい のぶあき）

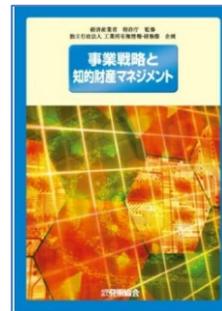
1954年東京都大田区、大森貝塚のそばで生まれる。

高校卒業後、家庭の事情により進学を断念したが、タクシードライバーで貯めた資金を手に80年に渡米。英語と文化を学び、その後、世界放浪バックパッカーになる。途中、4か月を過ごしたイスラエルのキブツで「生きている限り『知識』は奪われない」というユダヤの教えに出会い、結果的にこれが「知財」の道をめざすきっかけとなった。



帰国後、秋葉原の免税店で5年間セールス英語を磨き、精密機械メーカー特許部などを経て95年に国際特許事務所を設立。

2003-2014 東京都知的財産総合センター専門コンサルタント。今までのコンサル件数は、3000件を超す。『新井モデル』と呼ばれる講師考案の知財戦略は、特許庁の研修テキストや放送大学テキストなどで紹介された。



2007-2012 株式会社 STAC（慶大発ベンチャ

ー、田中茂教授）の監査役としてベンチャー支援を行う一方、2010-2012 東京農工大学産学官連携・知的財産センター客員教授として連携のあるべき姿を研究した。

日テレ系アナウンススクール等で研鑽を積んだプレゼンに対し、多数の企業研修、セミナーのアンケートにて受講者から「知財界の池上彰だ」「飽きないで聞くことができた」との評価を得ている。2009 から東京農工大学大学院非常勤講師（知財戦略論）、2016 からもものつくり大学非常勤講師（知財戦略論）。

共著 「事業再生の実務」（第一法規）ほか。

単著 2016 年秋に新潮社から知財関連書籍を上梓予定

弁理士 博士（工学、東京農工大学）、技術経営修士（MOT、東京農工大学）